

### 第3学年国語科指導案

1 日 時 令和3年11月19日(金) 2校時(9:35~10:20)

2 学年・組 第3学年1組 (26名)

3 単元名 場面を比べながら読み、感じたことをリーフレットにまとめよう。  
「ちいちゃんのかげおくり」

#### 4 単元の目標

(1) 様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。((1)オ)

(知識及び技能)

(2) 登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。(C(1)エ)

文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(C(1)オ)

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

#### 5 単元で取り上げる言語活動

「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、感想をリーフレットにまとめる。

#### 6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使っているとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ)	① 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	① 登場人物の気持ちの変化や情景について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って、物語を読んだ感想をリーフレットにまとめようとしている。

## 7 単元について

### (1) 児童観

本学級の児童は、これまで「きつつきの商売」で登場人物の会話や行動を表にまとめることで、登場人物の気持ちを叙述に基づいて想像する学習を行ってきた。「まいごのかぎ」では、場面の移り変わりとともに登場人物の気持ちに変化していることを捉える学習を行った。場面ごとに内容を捉え、感想をもつことはできるものの、物語全体を把握し、場面同士を結び付けて感想をもつことができる児童は少ない。

語彙については、分からない言葉や漢字をそのままにしておくことが多く、語彙の獲得が不十分である。そのため、国語辞典の使い方を学んだ後に、言葉ノートに意味調べをした言葉を貯めていたり、自分が読んだ本を「言葉のたから箱」の言葉を用いながら読書記録にまとめたりするなどの、継続的な活動を通して語彙の獲得を目指している。

### (2) 教材観

本教材は、児童が教科書で出会う最初の戦争文学教材である。戦争という現代とは異なる時代背景は、児童にとって、場面の様子を想像しがたいと思われる。しかし、主人公が幼い女の子であり、父や母、兄とのかかわりを中心に描かれていることから、主人公に寄り添いながら読み進めることができると考える。また、簡潔な文体で描かれており、女の子の命、家族の命を奪う戦争のむごさが、読む人の胸に深く伝わってくる作品である。本文は、時間の経過に沿って五つの場面に分けられ、場面設定が分かりやすい。また、会話や心情を想像する手掛かりとなる言葉が多く使われており、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像していくことを指導するのに適した教材である。

### (3) 指導観

本教材は、児童が初めて出会う戦争文学であるため、現代と異なる時代背景について理解することが難しいと考えられる。そのため、事前に戦争に関する文学作品に触れる機会を設けたり、学習を進める際には戦争に関連した事柄についての写真等の資料を提示したりすることで、児童が登場人物の気持ちや情景について具体的に想像できるようにする。

第二次では、児童が主体的に読み進めることができるよう、児童一人一人の感想を基に話し合った上で共通の学習課題を設定をする。その課題に沿って、これまでの学習と結び付けながら読んでいくことで、児童が自分の考えをもつ手立てとする。その際、児童が、登場人物の気持ちをよりの確に表現できるように「言葉のたから箱」を活用する。

言語活動として、学習で考えたことや感じたことをリーフレットにまとめる活動を設定する。リーフレットは、場面の移り変わりとともに登場人物の気持ちについて想像したことが視覚的に比較できるようにし、児童が登場人物の気持ちの変化について想像したり、交流場面では、一人一人の感じ方や視点の違いに気付かせたりする手立てとする。

8 単元の指導計画（10時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
0		<p>○「戦争に関するお話」コーナーの作品に触れ、関心をもつ。</p> <p>○「言葉のたから箱」の中でも「気持ちを表す言葉」を中心に言葉集めをする。</p>	<p>・現代と異なる時代背景に触れさせるため、戦争に関する文学作品を紹介する。</p> <p>・多様な表現に気付かせるために気持ちを表す言葉を掲示する。</p>	
一	1	<p>○学習のねらいや進め方を捉え、見通しをもつ。</p> <p>○範読を聞き、ちいちゃんに起きた出来事について確認し、初発の感想をまとめる。</p>	<p>・学習の見通しがもてるように学習のねらいや言語活動の流れを、単元を通して教室に掲示しておく。</p> <p>・学習課題の設定につなげるために、感じたことや疑問に思ったことを初発の感想に書かせる。</p>	
二	2  3 5 6 本 時 ・ 7	<p>○学習課題を設定する。</p> <p>○学習課題に沿って、登場人物の気持ちについて考えたことをリーフレットにまとめる。</p>	<p>・児童が主体的に読み進めることができるように、場面ごとに学習課題を出し合い、設定していく。</p> <p>・叙述に基づいて自分の考えを書くことができるように登場人物の気持ちが分かる文章に線を引かせる。</p> <p>・登場人物の気持ちを表現する際、多様な言葉を使うことができるよう「言葉のたから箱」の「気持ちを表す言葉」を参考にさせる。</p>	<p>◎会話や行動を表す言葉などを基に、場面の移り変わりや結び付けながら登場人物の気持ちを想像している。〔思①〕</p> <p>【観察・ノート・リーフレット】</p> <p>◎「言葉のたから箱」を参考にしたり、辞書で調べたりするなどして、様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。〔知①〕</p> <p>【観察・ノート・リーフレット】</p>
三	8 ・ 9	<p>○「ちいちゃんのかげおくり」を読んで感じたことや友達に伝えたいことを、理由とともにリーフレットにまとめる。</p>	<p>・感想や伝えたいことを表現する際に適切な言葉を見つけることができるよう、「言葉のたから箱」の「気持ちを表す言葉」を参考にさせる。</p>	<p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。</p> <p>〔思②〕</p> <p>【観察・リーフレット】</p>

10	○友達と読み合い、似ているところやちがうところを伝え合う。	・リーフレットの交流を通して、一人一人の感じ方に違いがあることに気づくことができるようにする。	◎登場人物の気持ちの変化や情景について、進んで場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って、物語を読んだ感想をリーフレットにまとめようとしている。 〔主①〕 【観察・リーフレット】
----	-------------------------------	---	---

9 主体的な伝え合いのために

主体的な伝え合いを行っていくために、これまで自分の考えを明確にすることを大切にしてきた。交流場面では、分からないことを質問したり、自分の考えと友達の考えを比べて互いの感じ方や考えの良さを伝え合ったりできるように継続的に指導してきた。

さらに、自分の考えを短冊に書いて黒板に貼り、友達の考えとの共通点や相違点を視覚的に捉えられるような方法も取り入れるようにした。

また、本単元では、伝え合いの目的を明確にし、全体で共有することで、読み取った登場人物の心情やそこから考えたことを活発に伝え合うことができるようにする。

<主体的な伝え合いを目指す指導系統表>

	低学年	中学年	高学年
目的	・友達のよいところを見付ける。 ・友達と話をつなげる。	・自分の考えと友達の考えを比べる（共通点・相違点）。	・自分の考えを広げたり、まとめたりする（整理・関係付ける）。
方法	・ペアトーク	・グループトーク ・学級全体で話し合う。 （司会を立てて、順番を決めて等）	・フリートーク ・それぞれの立場から伝える。
内容	・友達と確かめる。 ・感想を伝え合う。 ・紹介する、説明する、報告する。	・グループに分ける。 ・調べたことを伝え合う。 （説明、報告等）	・意見や提案を伝え合う。
場	感想の交流・集団解決・振り返り・発表会・報告会 など		
伝え合いを支える 日常の継続的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 亀<sup>てん</sup>っ子10（まなびの約束）</li> <li>・ 亀崎メソッド</li> <li>・ 亀崎いっぱい運動（時間いっぱい話す・文をいっぱい読む・マス目いっぱい書く）</li> <li>・ 聞き方名人・話し方名人（つながり発表）</li> <li>・ 読書の記録（「言葉のたから箱」のことばを使って書く。）年間20冊以上を目標</li> </ul>		

10 本時の学習（第二次6時）

(1) 目標

ちいちゃんの気持ちや第四場面の情景を、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像できる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 めあてを確認する。</p>	<p>・前時の「ちいちゃん」の気持ちを振り返ることができるように、ペアでリーフレットを読み合う時間を設ける。</p>	
<p>めあて ちいちゃんの気持ちを想像し、リーフレットにまとめよう。</p>		
<p>3 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>なぜ、ちいちゃんは、きらきらわらいだしたのだろうか。</p>	
<p>4 学習課題について考えたことをノートにまとめる。</p>	<p>・叙述を基に想像できるように、「ちいちゃん」の気持ち分かる文章に線を引かせる。</p> <p>・自分が考えた「ちいちゃん」の気持ちを適切に表現するため「言葉のたから箱」の「気持ちを表す言葉」を参考にさせる。</p>	<p>◎第一場面と第四場面の「かげおくり」の叙述を結び付けながら、登場人物の気持ちを想像している。〔思①〕</p> <p>【観察・ノート・リーフレット】</p>
<p>5 友達と考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ交流</li> <li>・全体交流</li> </ul>	<p>&lt;主体的に伝え合うために&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が読み取った主人公の気持ちについて、共通点や相違点を意識させて交流させる。</li> <li>・「分ける・くらべる」を参考に伝え合いをさせる。</li> </ul>	
<p>6 自分の考えを見直し、リーフレットにまとめ、振り返りをする。</p>	<p>・自分の考えの変容を意識できるよう、本時の学習を通して分かったことや友達の見解から考えたことなどを振り返らせる。</p>	

伝え合う

